

第10回北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第10回北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日時：令和4年2月14日（月）午前10時00分～11時54分
3. 場所：長坂総合支所2階会議室
4. 出席者：
（委員）清水一彦・日永龍彦・清水精・清水永一・向井伊三男・小澤浩・金谷裕司・小池雅美・細川英雄・瀧澤真・高木ひとみ
（事務局）加藤教育部長・佐野参事・平井教育総務課長・田中教育指導監・天池総務担当リーダー・安部施設担当リーダー・原学校教育担当リーダー・柳澤総務担当
5. 議事
（1）第3回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップの結果について
（2）北杜市立小中学校適正規模等についての答申（素案）について
（3）その他
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：2人
8. 議事録署名委員：小池雅美委員、細川英雄委員

議 題

（1）第3回北杜市立小中学校適正規模等検討市民ワークショップの結果について

（会 長） それでは議事に入る。事務局に説明を求める。

（事務局） （事務局より資料を用いて説明）

（会 長） 今の説明について何か質問等あるか。それぞれ重要な視点が入った意見だと思う。武川の意見が多いが、これはお一人の方が出されたものか。

（事務局） 複数の方からいただいたご意見を掲載している。

（委 員） 見学させていただいたので、会場の雰囲気をお伝えさせていただきたい。まず、当日の意見交換の進め方が大きく変わった。資料には主な意見が示されているが、水平のほう少し多かったかなと感じた。PTAの方から、市や教育委員会、審議会の方々が真剣に子どもたちについて考えてくれて

いるので、水平と垂直のどちらになろうともその意見を尊重してやっていきたいという話もあった。

(委員) ワークショップでは様々な意見が出て、大きく3つに分けられると思う。まずは、参加された方々の驚きである。具体的な案を絞り込むというのは、2回目から3回目にかけてちょっと飛躍しすぎているというご意見があった。次に出たのは、審議会とワークショップの関係はどうかという質問である。審議会で話し合われたことを、情報としてもう少し出してほしいという意見もあり、審議会として真摯に受け止めなければと感じた。その後は、それぞれの皆さんが積極的に、こうしてほしい、こうなってほしいといった意見を出していただき、それが答申案の「4. 今後に向けて」に記載されている意見だと思う。感想としては、私ども審議会がある程度の責任を与えられて方向性を決めることを任されているということを感じた上で、この審議会での審議をより充実させていく必要があるのではないかと感じた。

(会長) ワークショップは、組み合わせの優先順位をつけるということを目指していたが、結果的には難しかったというのが正直な所であると思う。やはりそれぞれの地域の代表者の発言には重みがあるので、審議会としても意見を十分に汲み取っていくという姿勢が大事だと思う。今日の素案の中には、ワークショップの結果は組み込まれているか。

(事務局) 組み込まれている。ただ、3回目のワークショップでは、組み合わせの優先順位をつけることは難しいという結果であったので、この部分については審議会としてどのようにまとめていくかについて、検討いただきたい。

(会長) 素案の中で、ワークショップについて触れることもあると思う。それでは、次の素案について議論していきたい。

(2) 北杜市立小中学校適正規模等についての答申（素案）について

(会長) 答申は文章化するのが通例であるが、素案はこれまでの資料を組み合わせで再編した形式になっている。これについてもどのような形にするのかがいいか考えていきたい。選択肢については、最適解を1つに絞り込むことは難しいので、可能性としていくつかの選択肢を示していくということになるかと思う。最も重要なのは、目指す北杜市の教育の姿が見えて、そこ

に向かって適正配置を進めていくことである。私としては、行政が次の段階へ進んでいけるような答申にしたいと考えている。

それでは、事務局に説明を求める。

(事務局) (事務局より資料を用いて説明)

(会 長) 私の方で気付いたことを2点ほど話させていただく。1つ目は、「2. これからの学校教育の方向性」であるが、国の動向から入っているが、それよりも北杜市が将来目指す教育像を持った上で、国や県の動向を参考にするというスタンスの方が良いと思う。2つ目は、26～27 ページの組み合わせのパターンの対応関係が分かりにくいので改善した方がよいと思う。それでは委員より意見を伺いたい。

(委 員) 先程、会長から答申素案は文章化すると発言があったが。

(会 長) 文章化は決まっていない。これから審議会の意見を伺って決める。文章化するにしても、これを基に作成する。

(委 員) 承知した。目次をみると、北杜市としてどのような学校教育を目指すのか、国や社会全体の動向などの情報が、素案の前半に掲載されていることが分かる。それによって北杜市の現状と課題が浮かび上がってくるが、それを審議会としてどのように考えるかという方向性を、10 ページのあたりに示さなければ答申にならないのではないか。11 ページでは、考え得る選択肢が大きく3つに分類して示している。これに繋げるためには、少なくとも10 ページまでの段階で北杜市はどのような学校教育を目指し、そのためにはどのような諸問題が解決されるのかということをはっきり示すことが必要である。そうしないと、なぜこの3つの案になるのか、なぜ水平・垂直なのかが分からない。この素案は様々な項目が羅列されているだけになってしまっているため、データを示すだけでなく、それをどのように解釈したかを、文章化していくことが必要である。

(会 長) 本質的なお話かと思う。10 ページまでの内容とそれ以降を繋ぐものが見えてこないということである。これについてはワーキンググループで提示したものがあったかと思う。今回の素案では、どのようになっているか。

(事務局) 12～14 ページにそれぞれの選択肢で実現する教育環境の方向性を示して

おり、これがワーキンググループで議論いただいた成果だと思っている。これまでの審議会の流れとしても、中央教育審議会が示した資料にあるように、学校施設の適正規模・適正配置については垂直統合という考え方も示されているという状況の中で、審議会としては3つの選択肢を設定し、選択肢ごとに実現できる教育環境の向上の方向性を考えてきたという経過だったと思う。素案の流れとしても、まず初めに北杜市の目指す学校教育である「原っぱ教育」をお示しさせていただきながら、国の方向性や様々な国・学校レベルの課題を列記し、3つの選択肢それぞれに「教育環境の向上の方向性」を示している。全体としては、14ページまでを審議会の議論の成果として示し、各種データは参考資料として後に付けるという構成にしている。

(委員) 垂直と水平のどちらがいいかという結論を出すことを目的化するのではなく、なぜ垂直なのか、なぜ水平なのかという解釈を審議会として出す必要がある。今までは歴史的な背景により水平統合を考えていて、そこで示された統合理由は理由になっていないということが、ワーキンググループでの議論である。そして新しく垂直統合という観点が生まれた。それでも、やはり水平が良いというのであれば、なぜ水平が良いのかという解釈を審議会として示す必要がある。それが示されないまま、現在に至っているので、そこをしっかりと定義して文章化する必要があると思う。

(会長) 素案の書き方だと、水平・垂直という選択肢が中央教育審議会から引用されて出てきたように誤解されてしまう。北杜市の目指す学校教育、現在の問題と解決策を語るために、北杜市としての1つの筋道を作る必要がある。この部分の説明資料があれば、答申はより説得力を増すと思う。

(委員) 本日欠席の委員から審議会に関するメールを頂いたので紹介させていただく。前回のワークショップの結果が示されたが、市民の意見が多様であり、審議会の考えも統一できていないと思う。水平統合は小学校の延長ではない多様な人間関係が育まれる環境の設定や、全教科正規教員の配置できる学級数の確保、部活動の多様性と単一校での活動の補償などを基準とすべきと考えて、これまで発言してきた。垂直統合についても、委員の方々が意見表明をされてきた。審議会でも選択肢の一本化が中々できない以上、両論併記にならざるを得ないと思う。その上で、24～29ページの「今後に向けて」をつけて、審議会の成果とするのが妥当ではないかと思う。私の意見もほぼ同意見だが、水平・垂直ともに、教育的な意味・妥当性、

メリット・デメリットなどがあるということは、これまでの議論でよく分かってきた。その上で、ワーキンググループで整理された水平統合のデメリットへの対応策については、本当に対応できるのかという疑問もある。逆に垂直統合のデメリットへの対応策については、委員より議論したという話は聞いたが、文章では示されていないので、この両方について議論する必要があると思う。それぞれの立場で参加しているので、意見を統一するのは現実的には難しい。双方のメリット・デメリットは理解できるので、様々な考えや論点を示しながら、市の方で考えを深めていただくということしかないと思う。審議会はそのそれぞれの立場の方が、それぞれの立場で考えを述べる場だと思う。

(会 長) これまで私が参加した審議会での経験は、結論が見えているものが多かった。例えば、単級や入学者がゼロなどの状況で、このような場合は対応策や方針が見えていたが、北杜市の場合は、直近で困るような状況ではなく、先を見通した議論が求められている。従って、将来の北杜市の教育はこうあるべきだという目標を今から育てておいて、今後の適正配置を考えていくべきだと思う。審議会で結論を出すことが出来ればそれが1番良いが、まずは将来の適正配置に向けた選択肢の材料を作ればと思う。

(委 員) 改めて答申を文章化する必要があると考えた。9ページに市内中学校でのヒアリング結果があるが、これに対してどのような解決策があるかを考えていく時に、水平統合では解決できないものが含まれているという議論をしてきた。このページが最初に来て、中央教育審議会の資料が並んでいるだけではこの関係性が見えない。課題に対する解決策の議論の経緯が見えないので、様々な検討の結果、このような考え方でデータをこのように読み解いてこのような考えになった、というような解釈をきちんと文章で示すべきだと思う。人は都合の良い情報だけを読み取ってそれだけで考えようとする傾向がある。従って考え方を文章化することで、審議会の検討の結果を次の議論に有用なものにすることができると思う。また、今回の答申の中に公共施設の保有面積に関する行政改革の目標について、触れなくてよいのかという疑問がある。北杜市では、保有面積の削減目標が30%から40%に引き上げられたことを受けて様々な議論がされているわけだが、今回の答申の中に本当に触れなくてもいいのか。先程ワークショップに関して感想やご意見があり、その中にも審議会としても検討が十分でないという話がある中で、残された検討課題を羅列するだけで審議会を終えてしまっているのか。この中には選択肢を絞っていくことを考える際にとても

重要な課題が含まれており、事実として提供するには十分なものもいくつか含まれているのではないかと思う。

(事務局) 公共施設の保有面積の削減については、以前も回答させていただいているが、この審議会においては子どもたちの教育環境を第一に考えていただくために、公共施設の保有面積の問題に捉われず議論していただきたいという思いである。行政改革大綱は、パブリックコメントを経て固めていく段階だが、まだ本決定ではない。一方でこの審議会の答申は、今年度中ということをお願いしているので、策定中の行政改革大綱の結論を受けてということとは難しいと思う。また、垂直統合と水平統合の組み合わせだが、国が推進しているからということではなく、様々な議論を経て3案が出てきており、それぞれにどのような教育環境を実現するか、課題に対してどう対応するかを記載している。しかし、ご意見いただいたようにデータの解釈については記載が不十分なところもあるので、追加・修正させていただきたいと思う。

(会長) 保有面積については、また庁内で検討していただきたいと思う。3つの選択肢に関連するデータの解釈や導出の経緯について文章化することで、北杜市の事を考えたということが示せると思う。

(委員) 統合を前提とした考えを一回削除して、地域住民や子どもたちが納得できる方法を見つけていった方が早いのではないかと思うが、答申は良い方向でまとまってきたと感じる。

(会長) 重要なお意見だと思う。ついつい統合が目的になってしまいがちだが、北杜市の将来の子どもの学習環境、地域の活性化などを考えて必要があれば統合というシナリオの方が良いと思う。

(委員) 来年・再来年にすぐ行動しなければいけないということではないので、地域に適正規模などを考えなければいけないという意識を持ってもらうことが重要だと思う。行政主導で「こうなるからこうしましょう」というように進めると、反発が起こる可能性がある。子どもを中心に考えていくのが良いのではないかと思う。

(委員) それぞれの地域の方々の考えをみると、意見を統一するのは難しいと思う。最終的には、市にある程度方向付けをしていただいて、それに賛同す

るという形でないと進まないというのが結論ではないか。

(会 長) ICT 化などの時代の動きもあるので、理想は審議会で将来の北杜市の子ども教育環境などを提示して、地域の方から学校を統合して一緒にやりましょう、子どもの教育に ICT をどう活用できるか考えましょう、という声が出ることである。そういう意味で北杜市の将来像を明確にして、住民に考えてもらうきっかけを作ることが重要だと思う。

(委 員) 関係者全員の納得を得るのは難しいと思う。この審議会を3年やっているとおっしゃっていたが、それだけの時間が経って審議会を最後どう持っていくのか方向性を1つに持っていくのか、それともいくつか示した中で地域の方々の意見を聞いて最終的な結論とするのかが見えてこない。また、今日の素案の中で、私が気になるのは9ページの教員の意見、今の中学校で発生している課題である。学校現場に直接携わっている方の意見は疎かにできない。私は現場の方々の意見を知り、どうしていくか考えていくための1つの目安にしたいと思う。

(会 長) 方向性というのは、前回の審議会が出したような8校を3校にするという結論は出せないと思う。今回の審議会ですべてまとめられるのは、こういうことが考えられるということを示唆することだが、このようなことを具体的に示すことには意味があると思う。そうすることで、地域の中で将来の教育についての考えが深まっていくと思う。教育への関心は高いが、実際に統合となると様々な問題を抱えている。北杜市になった時点で、北杜市全体としての教育や学校の適正配置を全市的に考える必要性が生じたことは事実であり、我々はそこに一石を投じるということかと思う。

(委 員) 北杜市がどういう教育をしていけばいいのか、私も見えていない。「原っぱ教育」とあるが、現実的には外で遊んでいる子どもはほとんどいない。広い地域であるため、中々交流もできないという状況である。多様化しているので、子どもに対して色々なことが「できる」親と「できない」親というのがいる。北杜市としては、どういった子どもの教育を重視していくのか、ということを考えるべきだと思う。子どもをどこにでも行かせられて教育もさせられるという世帯と、そういったことが難しい世帯の教育内容や人間関係を北杜市はどうしていくのかをはっきりさせないと、北杜市で子育てしたいという世帯は中々増えていかないと思う。本当に多様化しているので、皆の希望を全部まとめて良くしようというのは無理だと思う。

地域の方の意見を聞くのはとても大切だが、すべてを反映するのが難しい以上、北杜市はこういうことに拘っていきたいという方針を作ることが大切だと思う。そうでないと議論してもまとまらないのではないかと思う。統合するのは今ではないと言うが、今までもこういった話はあった。子ども達は様々なものを吸収して変化に順応している。私たちの方が順応出来ておらず、いつまでも昔に捉われている気がする。

(会 長) 「原っぱ教育」には、どこに行っても通じるような立派なことが書いてある。北杜市の教育がどのようなところに向かっているかということは、もう少しブレイクダウンしないと見えてこない。北杜市は「こういうことをしてこれを達成します」というのがアピールできると良いと思う。また、それは今の学校では実現できないため、統合をするという話になると良いと思う。

(委 員) ある程度市の方で決めてくれれば、それを叶えたいという意見もある。答申については、北杜市の教育というものを前面に出して、それを達成するためにどのような問題や親や地域の期待があって、問題を解決するためにこういった方法があるというようなことに対して、3つの案があるということを使うのがいいと思う。国の方針などは表に出す必要はなく、直接の当事者は、子ども、親、学校の先生方、そして北杜市である。もう1つの視点として、現場の先生方はこの3つの案に対してどのようなご意見をお持ちなのかを是非お聞きしたいと思う。テレビなどを見ていると全国的に教員が不足しているというのが取り沙汰されている。教員の負担が増えているということも聞く。背景には、非正規雇用の教員が増えて給与が減り、待遇が下がっているのも先生になりたいという子どもが減っており、私はこれも大きな問題だと思う。先生が減る一方で仕事は増えていくという悪循環になってしまう。統合することで先生方にとっても働きやすい職場になって欲しいと思う。従って当事者の現場の先生方はもっと声を上げていただき、私たちもそれを聞かなければいけないと思う。

(会 長) 教育における教員というのは非常に重要だと思う。今、北杜市でも若い先生を採用しても、共同で研修を受けて能力を向上する機会を提供するのは大変かと思う。教員不足というのは教育の中で非常に大きな問題である。この審議会には、校長先生に入らせていただいているので、教員を代表してご意見を頂ければと思う。

- (委員) 原っぱ教育の話が出たが、原っぱ教育研究指定校の活動を見ると、素晴らしい教育をしていると感じた。ICT やコミュニティスクールなどの素晴らしい取り組みもしているので、市としてはこういう教育をしているということを市民に広報することが大事である。また、全国学力学習状況調査において、北杜市は「将来北杜市にいたい」という項目が全国に比べて高くなっている。それだけ北杜市には魅力があり、素晴らしい教育をしているからこのような結果になったと思うので、もっと北杜市の教育の素晴らしさをアピールしてもらいたい。
- (会長) 将来北杜市にいたいというのは、愛着があるということである。山梨県は愛着度が最下位なので、北杜市はそれだけ高いということである。
- (委員) 北杜市では「原っぱ教育」を推進しているが、市民の皆さんには中々伝わっていないのかなと思う。「原っぱ教育」をどう進めていくかは学校ごとに考えており、各学校で取り組むことを教育委員会にもお知らせしながら実践している。一方で、市民の皆さんへの発信は不十分なところもあるので、広く発信していくことも重要だと思う。その上で、今後学校をどのようにして、どういう子どもを育てていくのかということを考えていくべきかと思う。学校としてはどういう子どもを育てていくのかというのは見えているように思う。新しい学習指導要領が示され、これまで学校というのは、先生が何かを教えていくことで学習が進んでいくが多かったと思うが、今は自分で課題を見つけたり調べたり発表していく、主体的に自分からするという方向に移っている。受験も知識があれば良いというわけではなく、考える力や提案する力が重視されている。企業で求められている人材もコミュニケーション能力が重要だとされており、学校ではそれも重要視して話し合いや発表などを自然に出来るようにするということを目標として取り組んでいる。先ほど先生方の意見も聞いていただきたいというご意見があったが、多くの先生方は統合について議論をしているということを知らない方も多くいる。従ってこのような議論がされていることをどう思うかということは、私も聞いてみたいと思う。学校の現場の先生方はそこで仕事をしていくので、人手不足などのやりづらい状況で進んでいくというのは望まない。できるだけ条件を整えて、良い仕事ができるようにするというのが大切だと思う。個人的には、できるだけ多くの考え方を分かってもらえる機会を多く取るのが大切だと思う。私の学校でも、ICT で他の学校と繋がって授業をしており、効果的だと思う。しかし、準備や相手の都合もあるので制約もある。日常的にコミュニケーションを取れるよう

になると良いと思う。

(会 長) この答申案は、通常みられるもののように改革案を1つに絞るまたは複数の案を示すという形ではなく、改革の可能性、組み合わせの可能性などを示す部分があっても良いと思う。一方で、本質的には北杜市の教育の将来像を提示し、それに基づいて現在の教育環境の問題を解決するための方策を抽出することが重要である。そして、将来の北杜市の教育の改革に繋げていくというスタンスで答申案を作っていくべきかと思う。今日はそのための議論であったが、特に目次の2番が中心となるので、しっかりと押さえておくことが重要である。学識の委員を中心にワーキンググループと事務局で案をまとめていただければと思うがいかがか。

(委 員) 答申を文章化するにあたって、学校教育の方向とどのように整合性を取るかが重要かと思う。是非、積極的に関わってくださる方にワーキンググループに入っていただきたいと思う。

(事務局) ワーキンググループの参加者は基本的にこれまで参加していただいている方にはお声がけさせていただくが、積極的に携わってくださる方がいらっしやれば是非お願いしたい。

(会 長) あまり大きくすると審議会と変わらなくなってしまうので、たたき台は学識の委員を中心にお願いできればと思う。ワーキンググループで案を作り、次の審議会においてまとめていきたい。その他なければ、以上で議事を終了する。

終了